

認知症の現状，補綴歯科治療と今後の研究展開

佐々木啓一^a， 笹木賢治^b

Current status, prosthodontic treatment and a perspective on future researches for dementia

Keiichi Sasaki, DDS, PhD^a and Kenji Fueki, DDS, PhD^b

認知症とは、「生後いったん正常に発達した種々の精神機能が慢性的に減退・消失することで，日常生活・社会生活を営めない状態」とされる¹⁾。認知症の症状は，記憶，言語，視空間認知などの認知機能の障害（中核症状）と，それに伴う行動・心理症状周辺症状（Behavioral and psychological symptoms of dementia; BPSD）からなる²⁾。疫学研究から，現在世界中に 5 千万人の認知症患者が存在し，今後毎年 1 千万人増加すると推測されている³⁾。本邦において 2012 年時点で，65 歳以上の高齢者における有病率は 15%（462 万人）程度と推定されており⁴⁾，今後，高齢者人口の増加に伴い認知症患者数も倍増すると予想されている。そのため，歯科医療従事者が認知症患者の歯科治療や口腔ケアを行う機会が増えると思われる。

認知症の原因疾患はさまざまであり，脳血管性認知症が最多で，アルツハイマー病，頭部外傷後遺症，前頭側頭葉変性症が続く¹⁾。認知症に対する治療法の開発は精力的に行われているが，現時点における認知症の治療薬は，基本的にアルツハイマー病に対する対症療法薬に限られ，根治療法は開発されていない¹⁾。したがって，認知症患者への対応ならびに認知症予防は，社会的に極めて重大な課題であり，国の方針として厚生労働省が定めた認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）では，歯科医師に認知症対応力の向上を求めており⁵⁾，文部科学省からは医科・歯科共同での大学教育 GP が提案された。

本学会においても専門医，会員が認知症患者に適切に対応しうることが求められ，認知症への理解を深め

るとともにエビデンスに基づいたガイドライン策定が喫緊の課題である。本学会における認知症に関連するこれまでの取り組みとしては，2010 年に日本学術会議の大型研究計画マスタープランに，佐々木元理事長を代表として「脳機能と咀嚼・口腔機能の相互連関の統合的理解」を提言，第 120 回記念学術大会（2011 年）の研究セミナー「口腔と脳機能を語る—エビデンス構築のためのクリティカルレビューとアクションプラン—」において，今後の研究への展望を示した。また第 124 回記念学術大会（2015 年）の臨床リレーセッションにおいて，認知症専門医と歯科医師による合同セミナーを開催し，本学会会員への認知症と歯科的対応への理解を図っている。2014 年には，編集委員会が企画論文「認知症高齢者に対する補綴歯科治療の考え方」において，多職種の先生方による，認知症，認知症患者への歯科治療立案プロセス，医療行為の同意などの倫理的側面の解説および文献のクリティカルレビューを行い，今後のガイドライン作成に向けて提言を行っている。

一方，（一社）日本老年歯科医学会は 2015 年に学会ポジションペーパー「認知症患者の歯科的対応および歯科治療のあり方」にて，“歯科と認知症患者との関わりを絶やさない”ことの重要性を示し⁶⁾，2018 年の義歯診療のガイドラインにおいて認知症患者に対する具体的な補綴診療の指針を提示している⁷⁾。

本シンポジウムでは，これまでの本学会における認知症への取り組みの経緯を鑑みて，第 1 部では認知症専門医の眞鍋雄太先生（神奈川歯科大学認知症・高齢者総合内科）に，改めて認知症の“今”を解説してい

^a 東北大学大学院歯学研究科口腔システム補綴学分野

^b 東京医科歯科大学大学院歯学総合研究科部分床義歯補綴学分野

^a Division of Advanced Prosthetic Dentistry, Tohoku University Graduate School of Dentistry

^b Section of Removable Partial Prosthodontics, Graduate School of Medical and Dental Sciences, Tokyo Medical and Dental University

ただき, そのうえでわれわれ歯科医師にどのような対応が期待されているのか, 今後学会として研究を行ううえで何が重要であるのか, 提言をいただいた. 第2部では, (一社)日本老年歯科医学会から公表された「認知症患者の義歯診療ガイドライン2018」の策定に携わった上田貴之先生(東京歯科大学)から本ガイドラインの概要を解説していただいた. ガイドラインの策定には本学会も協力しており, 臨床現場でのよりどころとなるものであるが, 現状ではその根拠となるエビデンスは盤石とはいえないようである. そこでガイドラインを改訂するために今後必要とされる臨床エビデンスを構築するためのリサーチクエスチョンを提言いただいた. 第3部では, 木本克彦先生(神奈川歯科大学)に, 先行研究から得られたさまざまな動物実験, 疫学研究, ヒトを対象とした実験, 認知症と口腔機能に関する臨床研究のクリティカルレビューをもとに, 今後の研究の方向性ならびに本学会が取り組むべき大型研究の展開に向けて提言いただいた. 実際, 本シンポジウム開催後に, 座長と演者らは認知症専門の学会との共同研究を企画し, 本学会の研究活動の一つとして学会内から広く参加者を募ることを現在, 計画している. 本論文が会員の認知症への理解を深め, 本学会

における今後の臨床エビデンス構築と研究展開に向けて新たなスタートになることを期待する.

文 献

- 1) 厚生労働省. 認知症, <https://www.mhlw.go.jp/kokoro/specialty/detail_recog.html>; 2019 [accessed 19.11.15]
- 2) 一般社団法人 日本神経学会. 認知症疾患ガイドライン2017. 東京: 医学書院; 2017, 19-50.
- 3) WHO. Dementia, <<https://www.who.int/news-room/fact-sheets/detail/dementia>>; 2019 [accessed 19.11.15]
- 4) Ikejima C, Hisanaga A, Meguro K, Yamada T, Ouma S, Kawamuro Y, et al. Multicentre population-based dementia prevalence survey in Japan: a preliminary report. *Psychogeriatrics* 2012; 12: 120-123.
- 5) 厚生労働省. 認知症施策推進総合戦略(新オレンジプラン), <<https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000064084.html>>; 2019 [accessed 19.11.15]
- 6) 一般社団法人 日本老年歯科医学会. 認知症患者の歯科的対応および歯科治療のあり方: 学会の立場表明, <http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline_20150527.pdf>; 2015 [accessed 19.11.15]
- 7) 一般社団法人 日本老年歯科医学会. 認知症患者の義歯診療ガイドライン2018, <http://www.gerodontology.jp/publishing/file/guideline/guideline_20180625.pdf>; 2018 [accessed 19.11.15]